



# 茨城県とイタリア＝エミリア・ロマーニャ州 ～未来に向けた農業・科学技術を軸とする活発な友好交流活動～

茨城県営業戦略部国際渉外チーム 国際交流員 ジャワ・セイフェン、コン・ソフィー

## はじめに

茨城県では、1985年の「科学万博つくば'85」での交流を契機として、翌年にイタリアのエミリア・ロマーニャ州と友好協定を締結しました。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い交流の促進が困難になっていましたが、2023年5月に5類感染症に移行したことから、活気に満ちた交流を再開しました。本稿では特に2023年度の相互訪問を中心に、農業、経済や科学技術の分野において、エミリア・ロマーニャ州と実施した友好提携都市交流を紹介します。

## エミリア・ロマーニャ州の概要

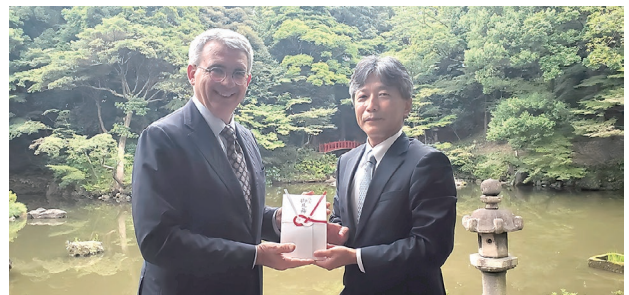
エミリア・ロマーニャ州は、イタリア北部に位置しており、約440万人の人口を有する農業や食品産業、製造業が非常に盛んな地域です。農産物の輸出額全国1位を誇ることから「食の宝庫」とも称えられており、ポロネーゼ、パルメザンチーズやパルマハムをはじめ、世界中で知られている食品の発祥地です。また、フェラーリやランボルギーニといった優れた自動車産業のほか、西洋最古の大学と言われるボローニャ大学や世界4位のスパコンであるレオナルドがあるなど、研究開発が進んでいる地域でもあります。対する茨城県も農業産出額全国3位を誇るとともに、国などの研究機関の約3割が集積するつくば市を有しており、両地域に共通する農業、科学技術などの強みに焦点を当てたことが後述のとおり交流を再開させる鍵となりました。

## 災害への対応

2023年5月にエミリア・ロマーニャ州で発生した大規模な洪水の被害者への緊急支援のため、義援金を2回に分けて贈呈しました。まず6月には駐日イタリア大使館を通じての災害見舞金を、9月には県民から寄付された義援金を贈呈し、ステファノ・ボナッチーニ州知事が

ら温かいお礼の言葉がありました。

まだ避難生活を強いられている住民もいるそうです。水害からの一刻も早い復興を心からお祈りしています。



ベネデッティ駐日イタリア大使（左）への見舞金の贈呈

## 現地健康食品フェアで県産品をPR

9月には、ヨーロッパ向けの輸出に関心を持つ県内生産者の支援として、ボローニャ市で開催された「サナ(SANA)」というヨーロッパ最大級の健康食品フェアにブースを出展しました。

こんにやくやソイミート、納豆、ほしいも、梅酒、梅干し、緑茶などの特産品をPRし、新たな販路開拓を行いました。2日間にわたり、多くの人々が来場し、イタリアにおける県産品の知名度を高めるうえで大成功を収めました。



現地健康食品フェア「サナ」における本県ブースの様子

さらに、州政府の経済および農業担当部門、市内の研究機関や民間企業とも今後の連携に向けて意見交換を行

いました。両地域の友好関係を深めるために、現地訪問は不可欠であることを改めて実感できました。

## 共同ウェビナー：農業・食品を中心に

10月には、農業と食品を中心にした共同ウェビナーを実施しました。国内や海外からの参加者100余人に対し、両地域の研究機関や民間企業が「未来に向けた新しい技術や手法の取り組み」を紹介し、互いの産業や先進的な取り組みについて、より理解を深める機会となりました。このような意見交換の場を提供することが、両州県の技術交流の実現に向けた重要な一歩につながりました。



農業と食品を中心にした共同ウェビナーの登壇者一覧

## エミリア・ロマーニャ州知事の来県

11月にはボナッチー二州知事をはじめ、エミリア・ロマーニャ州の研究機関、民間企業からなる40余人の訪問団を本県へ迎えました。2023年1月の日伊首脳会談の際、両首脳が日伊関係を「戦略的パートナー」に格上げすることで一致したこともあり、ベネデッティ駐日イタリア大使を迎えた、大井川和彦茨城県知事、ボナッチー二州知事との三者面談は、両国が関係を強化しているなかで、とても有意義な機会となりました。この面談において、両知事は経済的、研究・技術的、文化的な交流の促進に合意しました。



ボナッチー二州知事（左）による大井川県知事への表敬訪問

この他、同州の訪問団は農研機構、県の農業総合センター、筑波大学およびJAXA（宇宙航空研究開発機構）を訪問し、各機関の研究者と意見交換を行いました。ボナッチー二州知事は、「茨城県は、日本国内での科学技術や産業の中心と理解している。当州は航空や宇宙産業に投資しており、産業分野で協力を一層深めていきたい」と発言しました。

## 茨城県知事の訪州

2月には大井川知事をはじめ、県議会議員、科学技術・食品分野の県内中小企業、筑波大学、友好交流協会などからなる約40人の訪問団がエミリア・ロマーニャ州を訪れ、現地メディア向けに本県の優れた特産品や産業、観光地のPRを行いました。本県知事が同州を訪問するのは38年ぶりでした。

本県の盛んな農業と同州の優れた食文化という互いの特性を融合し、現地シェフが県産品をイタリア風アレンジしたメニューが特に注目を浴びました。



本県のレンコンチップスと納豆、ウイスキーをもとにイタリア風アレンジされたメニューの一つ

また、ボローニャ大学付属航空宇宙研究所（CIRI）に、本県の宇宙ビジネスに関する取り組みを紹介し、県内ベンチャー企業に対する関心の向上につながりました。

## 終わりに

新型コロナウイルス感染症の流行後の、交流再開の出発点となった2023年度の相互訪問を通して、民間企業や研究者、一般人にまで広がる行政を超えた交流を成し遂げるために、相互訪問が重要であることを改めて実感しました。相互訪問は農業と科学技術という両地域が共通している強みを生かし、特産品の販路開拓や文化交流などを促進するきっかけとなりました。そして、上記の分野における友好関係の無限な可能性を確認することができました。茨城県では、2024年度以降も、2025年の大阪・関西万博や2026年の友好都市提携40周年に向けて、より密接な友好関係を築くよう尽力していきたいと考えております。